

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成22年9月16日(2010.9.16)

【公開番号】特開2009-37051(P2009-37051A)

【公開日】平成21年2月19日(2009.2.19)

【年通号数】公開・登録公報2009-007

【出願番号】特願2007-201949(P2007-201949)

【国際特許分類】

G 0 3 G 21/00 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 21/00 3 7 0

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月2日(2010.8.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

加熱式の定着ローラと、

該定着ローラに非接触な状態で配置されて、前記定着ローラの温度を検知する第 1 のセンサと、

前記第 1 のセンサの雰囲気温度を検知する第 2 のセンサと、

前記第 1 のセンサ及び前記第 2 のセンサで検知される温度に基づいて、演算式を用いて算出される前記定着ローラの表面温度が目標温度になるように温度制御する制御手段と、を備え、

前記制御手段は、前記表面温度が第 1 の目標温度になる様に温度上昇させる場合における前記表面温度を算出するための第 1 の演算式と、前記表面温度が前記第 1 の目標温度よりも低い第 2 の目標温度になる様に温度下降させる場合における前記表面温度を算出するための第 2 の演算式とを異ならせることを特徴とする画像形成装置。

【請求項 2】

前記第 1 の演算式は、前記第 2 のセンサで検知される温度と前記第 1 の目標温度に応じた所定の温度との差分をパラメータとし、前記第 2 の演算式は、前記第 1 のセンサで検知される温度と前記第 2 の目標温度に応じた所定の温度との差分及び前記第 2 のセンサで検知される温度と前記第 1 の目標温度に応じた所定の温度との差分をパラメータとすることを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】画像形成装置

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００１】

本発明は、例えば、複写機、プリンタ、ファクシミリ等の画像形成装置に関する。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３４】

そこで、本発明は、定着ローラの表面に傷をつけることなく、簡単な回路構成によって精度の高い定着ローラの温度検知を行なうことができる画像形成装置を提供することを目的とする。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３５】

上記目的を達成するために、本発明の画像形成装置は、加熱式の定着ローラと、該定着ローラに非接触な状態で配置されて、前記定着ローラの温度を検知する第１のセンサと、前記第１のセンサの雰囲気温度を検知する第２のセンサと、前記第１のセンサ及び前記第２のセンサで検知される温度に基づいて、演算式を用いて算出される前記定着ローラの表面温度が目標温度になるように温度制御する制御手段と、を備え、前記制御手段は、前記表面温度が第１の目標温度になる様に温度上昇させる場合における前記表面温度を算出するための第１の演算式と、前記表面温度が前記第１の目標温度よりも低い第２の目標温度になる様に温度下降させる場合における前記表面温度を算出するための第２の演算式とを異ならせることを特徴とする。

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３６

【補正方法】削除

【補正の内容】